

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家 南ユニット		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70		
自己評価作成日	平成29年3月11日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2395600022-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成29年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が持っておられる個々の能力を生活の中で発揮して頂きながら楽しく生活して頂けるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設し今年で9年を迎えた事業所は大治町に隣接し、田畑や住宅地が点在する一画に事業所がある。木のぬくもりを取り入れた左右対称の2ユニットのホームは、民家のような落ち着いた佇まいで手入れが行き届いている。理念の「家庭的な日常生活を通して安心と尊厳ある日常生活を営む」ことを職員は共有しながら、日々の支援に努めている。近隣の市や町の情報を得て、花見や雛人形の展示など季節の催しに出かけたり、買い物や日々の散歩を通して挨拶を交わしたりして地域とのつながりを大切にしている。また、日々の散歩を通して、四季の草摘みをし、お団子や和えものなどをして昔の風情を楽しんでいる。入居者同士で交友関係ができ、お喋りや部屋への行き来を楽しんでいる。入居者は広く明るいきりこみで、洗濯物たたみや掃除など家庭生活の延長を思わせる家事を楽しんだり、ゆったりとテレビを見たり、歌や体操などのレクリエーションをして過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議にて話し合いを行い、理念を共有し実践につながるよう努力しています。	事業所の理念をユニットの居間、職員の休憩室に掲示している。理念に沿った具体的なケアが実践できるように取り組んでいる。また、職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深めケアに活かすように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の夏祭りには毎年近隣の方へチラシ及び食事のチケットを配り、参加を集めている。玄関の掃除、毎日の散歩で日常に挨拶を交わしている。	町内会に参加していないが、回覧板などで情報を得ている。地区の作品展に作品を出展し、皆で見学に行っている。幼稚園児との交流もある。散歩や買い物に出かけ地域の人と挨拶を交わり、地域の人と触れあう機会を大切にしている。地域に夏祭りの案内をしているが交流を深めるとまでは行かず、方法を模索中である。	開設し9年目であるが、地域との日常的交流が少ないと思われる。地域に事業所の知名度を高めるために、事業所の行事の紹介や招待また、広報活動等を積極的に働きかけをしていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員、地域の区長さんに参加をしてもらい、認知症の方の生活や支援を見てもらい地区の集まりで施設の紹介をしてもらっている。今後は地域の方への貢献ができるように考えて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度状況の報告、意見をもらい本人・家族へのサービス向上に努めている。	入居者、区長、民生委員、高齢福祉課職員の参加を得て年6回開催している。全家族に会議の案内を配布している。事業所の状況や行事の報告、出席者からの地域行事や行政の情報などがあり、意見交換が行われ運営に活かされている。家族の参加が思わしくないので、方法を検討している。	運営推進会議には家族の参加を得て開催し、それらの意見を反映させていくことが重要と考えられる。家族が集まりやすい日に日程の調整や会議の内容をお知らせするなどして、入居者、家族が参加するような働きかけと工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の際や福祉事務所・地域社協の毎月の訪問時、更新申請代行時に情報ももらい、必要時には電話での連絡もしている。出来る限り市社協主催の研修に参加させてもらっている。	更新手続き代行の折に、入所に関する相談等について行政担当者に指導や助言を得ている。また、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。市主催の研修に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られたら職員と一緒に散歩を行い、傾聴もさせて頂いているが、時々外出されてしまう方がいる為、状況に合わせてですが、事故防止の為、施錠している時がある。	身体拘束について月1回の会議に事例検討を行い意識を高めるようにしている。スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境造りに努めている。玄関は防犯対策上施錠をしている。足元センサーマット利用については、家族に説明と同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティング時資料を配り研修を行ったり、施設外の研修に行く等、虐待とは何かを職員で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に活用の支援をしている。活用の中で制度を学び、理解していている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見てもらいながら説明し、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に推進会議へ参加してもらい、意見を出してもらっている。意見を日々の支援や運営に反映させている。	入居者からは日々のケアの中から意向を聴取し、意見や要望は日誌等に記録し、会議で検討して運営に反映させている。家族からは、面会や行事の折に、入居者の状況を話すことによりきっかけを作り、意見を引き出すようにしている。得られた意見等は検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで意見を出し合い業務に反映させている。	会議や日常業務の中で、職員の意見や提案、希望を把握している。また、申し送りノートを活用し、必要に応じ反映している。個別の面談で職員の要望や意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務状況(業務態度や努力等)を把握している。向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を深めている。その際に学んだ事をサービスの質の向上に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り寄り添いながら好きな事、嫌いな事等を伺いながら、悩みや不安な気持ちを話して頂ける信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望などをお聞きし、安心して入居して頂けるように努めている。入居してからのご様子も、後日ご家族様へ伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状を教えて頂き、最も必要とされる支援の提供と、必要時には他のサービスへの橋渡しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ち、想いを考え、ミーティングで話し合い、支え合う関係が築ける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に寄って頂けたり、気軽に相談して頂ける関係を築き、ご本人のご家族に対する思いを伝えたり、ご本人の思いもご家族にも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅と同じように、馴染みのスーパーのチラシを見て値打ちな品物を探してもらい買い出しに言っている。喫茶店への外出を継続している。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握しケアに活かせる様に努めている。スーパーへの買い物や喫茶店、家族と一緒に馴染みの美容院やお墓参りなどへ出かけたりしている。日常の掃除や野菜作りなど培った経験を楽しみながら日常に活かすような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、良好で支えあえ、個々に関わりを持って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時は、その都度支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一にし、意向を伝えられない方へはご家族と話し合い、ご本人であれば何を希望されるかを検討している。	入居者との会話や表情、行動から意向の把握に努め、申し送りノートに記入し、随時職員間で話し合い本人の思いに沿えるようにしている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。また、希望の把握が押しつけにならない支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族やケアマネ、サービス業者からも話を聞き、本人の生活を把握できるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご本人の話された内容やその時の表情や態度、行動を記録しており、その中から好きなこと、嫌いな行為を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では日々話し合い、すぐに取り組める意見はその日から反映し、状況に変化が見られる際はすぐに計画の見直しを行っている。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を記載した個別記録を基に、家族の意向や意見等をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。6か月に1回の定期見直しや状況に応じて随時見直しをし、家族に内容を説明し同意を得ている。	どの職員も記録内容を共有したり、入居者の状態を把握し同じケアができるように書類の記入方法、保管場所の工夫の検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会話や行動を記録し、職員全てが確認できるように保管し、日中では分からない夜間の状態は、毎朝、夜勤者より報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や事業所との連携を取りながらホーム以外のサービス利用やご家族の相談援助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で繋がって生活している事を実感してもらえるように地域の催事や近隣の喫茶店への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての相談をご本人、ご家族と行い意向を一番に考え、ご家族の負担にも留意しながら支援している。	入居時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んで頂いている。協力医による月2回の往診や24時間体制での往診が可能であり適切な医療を受けられるような支援をしている。精神科の受診は月1回、週1回訪問看護師の来訪もある。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては、職員間で確認しながらケアに繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、協力医の看護師にも状況の変化や情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援している。状況に応じた往診、受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時のご本人の情報提供や入院中の面会では情報交換や退院後の相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞きながら、入居時に重度化や終末期のあり方について説明をさせて頂き、同意を頂いている。ご本人にとって最良となる方向に向けて支援できるように努めている。	看取りは行っていないが、重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度、本人や家族に希望を再確認し、具体的な支援などを話し合っている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡網を提示し、各職員が把握できるようにし、事故発生時に備えている。消防署の指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行事への参加、避難訓練への参加を近隣の方にお願ひさせて頂き、協力体制を築ける様に努力していく必要がある。	火災の避難訓練を昼、夜間想定で行っている。消防署職員の立ち合いの下での訓練も過去に行っている。水や食料など3日分の備蓄を蓄えている。地域との協力体制については、模索中である。	再度、消防署立ち会いの下に訓練を実施し、専門的立場からの評価や指導を受け、安全な避難経路や避難方法などを確立していくことを願いたい。有事の際に地域との相互協力体制を整えていくことを期待したい。また、地形や地域状況を考慮し、水害などを想定した訓練の実施も検討していくことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つけないように言動に注意し、対応している。	入居者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めたり、慣れ合いによる不適切な対応をしないよう相互に注意し合いながら、支援するようにしている。	入居者の個性や人格、相性などを考慮し、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように居室のドア、トイレのカーテンの取り扱いに留意し気配や臭い、音などを含め改良検討を願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己主張や自己判断が困難な方が多く、多くの中から選択は難しいため、二つの提示をしてどちらが良いのか、好きなのかを選んでもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、その方のペースにあった形で、1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や散髪、ひげそりの支援や、衣類の購入の困難な方もいるため、ホーム職員からクリスマスや敬老の日に好きな色や似合う衣類や靴下のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見てお買い得品を探してもらい、一緒に買い出しに行ったり、皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどを一緒に行ってもらっている。	食事は委託業者から調理された副食が提供されている。月1回の調理レクは、入居者の希望を聞きながら献立を決め、食材の買い物や調理の手伝いも行っている。入居者の保有能力に合わせ、主食と汁物の調理や片付けなどを行っている。また、手作りおやつがあり食べる楽しみが持てるようにしている。職員も一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握して記録をし、個々の過不足に応じた支援をしている。水分の取れない方には、ゼリーを提供したり、お茶、コーヒー、スポーツドリンク以外にも様々な用意して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、義歯は毎晩消毒をさせてもらっている。訪問歯科の検診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、習慣を把握し、トイレの声かけをさせて頂く。ズボンの上げ下げ等自分で出来る所事はして頂き、できるだけトイレでの排泄を支援している。	座位での排泄やおむつを使わない支援に心がけている。排泄チェック表をもとに、一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、適切な支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、水分の摂取や運動、服薬を支援したり、ゆっくりとトイレに入ってもらえるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきになってしまうが、個浴でゆっくりと職員とも会話をしながら多種の香りの入浴剤や季節にはゆず湯、菖蒲湯等の入浴をして頂いている。	週2回、午前の時間帯で湯温、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯等を実施し入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	脱衣場にはヒートショック対策としてヒーターが置かれているが、色々な物が多く置かれており、目に入り不快に思われぬように、ゆっくり楽しむことができるように環境を整えることを望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特別決めず、ご本人の希望に応じた時間に休んで貰っている。食後や入浴後には状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、処方薬を確実に服用できるように支援している。症状の変化が見られた際は速やかに報告し、指示を仰いでいる。変更時は各職員へ伝え、個々の処方薬を確認できるようファイルを置いてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で得意な家事を行って頂いたり、歌の好きな方には日々の中で唄って頂いたり、ぬり絵、散歩等、一人ひとりに合った内容で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへ買い物へ行ったり、近所の御宮に御参りしながら花を観に出掛けたり、隔月喫茶店への外出を支援している。町内の行事にも参加している。	日々の生活の中で外に出ることを大事にし、できる限り周辺の散歩に出かける支援をしている。四季の移ろいを感じながら職員と一緒にカフェや買い物などに出かけたり、花壇や菜園の手入れをしたり、野菜の収穫なども行い外気に触れる機会を大事にしている。個々のニーズに合わせて、できるだけ入居者の思いが反映できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は大半の方が管理困難の為に頂かず、職員との買い出しに行っていた際に可能な方は支払いをして頂き、おつりを受け取ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、ご希望時やご家族からの届け物が届いた際等に電話を掛けて話してもらっている。年賀状のやり取りの支援を毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や行事や外出の写真を飾っている。トイレ前には温度差の軽減に加湿ファンヒーターを置き夜間の寒さに対応している。空気清浄機を置き、匂いへの対策を講じている。	共用空間は明るく、食卓やソファが設置されている。壁面には、適度な制作物が飾られ、居心地の良い空間となっている。キッチン是对面式で調理の様子が見え、また職員は調理を行いながら利用者を見守ることができる配置となっている。清掃を入居者も手伝っており、清潔な共用空間づくりの役割を担っている。ソファに腰掛け、会話を楽しんだり、新聞、テレビを見たりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓、ソファの好きな場所で過ごして頂き、1人の時間が過ごしたい時は玄関のソファ、居室にて過ごされたり、窓辺で日向ぼっこをしながら過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた物をお持ち頂くようお願いしている。御位牌をお持ちになられたりポスターを貼ったり好きなように過ごして頂いている。	居室のベット、エアコンは備え付けで有るが、タンスや椅子など馴染みの物を持参して安心できるスペースや環境作りをしている。写真、小物を飾ったり、仏壇を持ち込まれる方など、本人が自宅と変わらず安心して生活が送れるような支援を行っている。掃除は職員と入居者で実施し、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからなくなる方が多く、迷っても自分で居室に戻れるように、居室の戸に個別の切り絵やのれんを付け判り易くしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家 北ユニット		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70		
自己評価作成日	平成29年3月11日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2395600022-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成29年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用様が持っておられる個々の能力を生活の中で発揮して頂きながら楽しく生活して頂けるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設し今年で9年を迎えた事業所は大治町に隣接し、田畑や住宅地が点在する一画に事業所がある。木のぬくもりを取り入れた左右対称の2ユニットのホームは、民家のような落ち着いた佇まいで手入れが行き届いている。理念の「家庭的な日常生活を通して安心と尊厳ある日常生活を営む」ことを職員は共有しながら、日々の支援に努めている。近隣の市や町の情報を得て、花見や雛人形の展示など季節の催しに出かけたり、買い物や日々の散歩を通して挨拶を交わしたりして地域とのつながりを大切にしている。また、日々の散歩を通して、四季の草摘みをし、お団子や和えものなどをして昔の風情を楽しんでいる。入居者同士で交友関係ができ、お喋りや部屋への行き来を楽しんでいる。入居者は広く明るいきりこみで、洗濯物たたみや掃除など家庭生活の延長を思わせる家事を楽しんだり、ゆったりとテレビを見たり、歌や体操などのレクリエーションをして過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議にて話し合いを行い、理念を共有し実践につながるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の夏祭りには毎年近隣の方へチラシ及び食事のチケットを配り、参加を集めている。玄関の掃除、毎日の散歩で日常に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員、地域の区長さんに参加をしてもらい、認知症の方の生活や支援を見てもらい地区の集まりで施設の紹介をしてもらっている。今後は地域の方への貢献ができるように考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度状況の報告、意見をもらい本人・家族へのサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の際や福祉事務所・地域社協の毎月の訪問時、更新申請代行時に情報を持ち、必要時には電話での連絡もしている。出来る限り市社協主催の研修に参加させてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られたら職員と一緒に散歩を行い、傾聴もさせて頂いているが、時々外出されてしまう方がいる為、状況に合わせてですが、事故防止の為、施錠している時がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティング時資料を配り研修を行ったり、施設外の研修に行く等、虐待とは何かを職員で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に活用の支援をしている。活用の中で制度を学び、理解していている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見てもらいながら説明し、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に推進会議へ参加してもらい、意見を出してもらっている。意見を日々の支援や運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで意見を出し合い業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務状況(業務態度や努力等)を把握している。向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を深めている。その際に学んだ事をサービスの質の向上に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り寄り添いながら好きな事、嫌いな事等を伺いながら、悩みや不安な気持ちを話して頂ける信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望などをお聞きし、安心して入居して頂けるように努めている。入居してからのご様子も、後日ご家族様へ伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状を教えて頂き、最も必要とされる支援の提供と、必要時には他のサービスへの橋渡しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ち、想いを考え、ミーティングで話し合い、支え合う関係が築ける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に寄って頂けたり、気軽に相談して頂ける関係を築き、ご本人のご家族に対する思いを伝えたり、ご本人の思いもご家族にも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅と同じように、馴染みのスーパーのチラシを見て値打ちな品物を探してもらい買い出しに言っている。喫茶店への外出を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、良好で支えあえ、個々に関わりを持って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時は、その都度支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一にし、意向を伝えられない方へはご家族と話し合い、ご本人であれば何を希望されるかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族やケアマネ、サービス業者からも話を聞き、本人の生活を把握できるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご本人の話された内容やその時の表情や態度、行動を記録しており、その中から好きなこと、嫌いな行為を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では日々話し合い、すぐに取り組める意見はその日から反映し、状況に変化が見られる際はすぐに計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会話や行動を記録し、職員全てが確認できるように保管し、日中では分からない夜間の状態は、毎朝、夜勤者より報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や事業所との連携を取りながらホーム以外のサービス利用やご家族の相談援助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で繋がって生活している事を実感してもらえるように地域の催事や近隣の喫茶店への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての相談をご本人、ご家族と行い意向を一番に考え、ご家族の負担にも留意しながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、協力医の看護師にも状況の変化や情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援している。状況に応じた往診、受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご本人の情報提供や入院中の面会では情報交換や退院後の相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞きながら、入居時に重度化や終末期のあり方について説明をさせて頂き、同意を頂いている。ご本人にとって最良となる方向に向けて支援できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡網を提示し、各職員が把握できるようにし、事故発生時に備えている。消防署の指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行事への参加、避難訓練への参加を近隣の方にお願ひさせて頂き、協力体制を築ける様に努力していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つけないように言動に注意し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己主張や自己判断が困難な方が多く、多くの中から選択は難しいため、二つの提示をしてどちらが良いのか、好きなのかを選んでもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、その方のペースにあった形で、1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や散髪、ひげそりの支援や、衣類の購入の困難な方もいるため、ホーム職員からクリスマスや敬老の日に好きな色や似合う衣類や靴下のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見てお買い得品を探してもらい、一緒に買い出しに行ったり、皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどを一緒に行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握して記録をし、個々の過不足に応じた支援をしている。水分の取れない方には、ゼリーを提供したり、お茶、コーヒー、スポーツドリンク以外にも様々な用意して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、義歯は毎晩消毒をさせてもらっている。訪問歯科の検診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、習慣を把握し、トイレの声をかけをさせて頂く。ズボンの上げ下げ等自分で出来る所事はして頂き、できるだけトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、水分の摂取や運動、服薬を支援したり、ゆっくりとトイレに入ってもらえるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきになってしまうが、個浴でゆっくりと職員とも会話をしながら多種の香りの入浴剤や季節にはゆず湯、菖蒲湯等の入浴をして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特別決めず、ご本人の希望に応じた時間に休んで貰っている。食後や入浴後には状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、処方薬を確実に服用できるように支援している。症状の変化が見られた際は速やかに報告し、指示を仰いでいる。変更時は各職員へ伝え、個々の処方薬を確認できるようファイルを置いてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で得意な家事を行って頂いたり、歌の好きな方には日々の中で唄って頂いたり、ぬり絵、散歩等、一人ひとりに合った内容で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへ買い物へ行ったり、近所の御宮に御参りしながら花を観に出掛けたり、隔月喫茶店への外出を支援している。町内の行事にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は大半の方が管理困難の為に頂かず、職員との買い出しに行っていた際に可能な方は支払いをして頂き、おつりを受け取ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、ご希望時やご家族からの届け物が届いた際等に電話を掛けて話してもらっている。年賀状のやり取りの支援を毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や行事や外出の写真を飾っている。トイレ前には温度差の軽減に加湿ファンヒーターを置き夜間の寒さに対応している。空気清浄機を置き、匂いへの対策を講じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓、ソファの好きな場所で過ごして頂き、1人の時間が過ごしたい時は玄関のソファ、居室にて過ごされたり、窓辺で日向ぼっこをしながら過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた物をお持ち頂くようお願いしている。御位牌をお持ちになられたりポスターを貼ったり好きなように過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからなくなる方が多く、迷っても自分で居室に戻れるように、居室の戸に個別の切り絵やのれんを付け判り易くしている。		